日本比較教育学会

第40回大会　発表要旨集録

JCES 40th

2004年6月26日(土)～27日(日)

名古屋大学

自由研究発表・ラウンドテーブル：文系総合館

シンポジウム・総会　　：IB電子情報館

課題研究　　：教育学部

Japan Comparative Education Society

現代台湾における九年一貫性教育課程の統合化に関する考察
—アメリカにおける Humanistic Curriculum 理論の観点から—

張　汝秀
(東北大学大学院)

一. はじめに

本研究は、1998 年以降、台湾で行われている九年一貫性教育課程に注目し、その統合化の取り組みをアメリカで行われている Humanistic Curriculum 理論の視点から考察するものである。

変化しつつある現代社会の要請に応えるため、1990 年代後半に入って、台湾で展開している人間性重視のカリキュラム改革は本格的に実施し始めた。それは、いわゆる九年一貫性教育課程の改革案である。この改革案は児童生徒に理想的な十大基本能力の育成を図ろうとするため、従来の教科分科を打破し、それを七つの学習領域に統合した。また、現代社会の重要な課題に対応するため、両性教育、環境保護教育、情報教育、家政教育、人権教育、生涯発展という六大議題をこの七つの学習領域に取り入れなければならないという。そして、教育内容の統合は、今回の改革案の最も重要な重点の一つである。

このように、九年一貫性教育課程の特色は、十大基本能力を重視し、教育内容の統合および学校に基礎を置くカリキュラム開発（School-based Curriculum development）を強調するところにある。ところで、こうした能力主義と人間中心主義の性格を同時に帯びる九年一貫性教育課程は、カリキュラム統合の取り組みにおいて、いかなる特質を呈しているか。また、戦後から台湾ではアメリカの教育理論・成果に大きな影響を受けているため、教育の人間化を求めている今回のカリキュラム改革は、Humanistic Curriculum 理論の視点から、どのような示唆を示しているか。本研究はこれらを明らかにし、結論を試みる。

二. Humanistic Curriculum 理論におけるカリキュラム構成

Humanistic Curriculum の開発に関して、アメリカで最も大きな教育研究団体である NEA（全米教育協会）は、1970 年に『Curriculum for the 70's』というレポートを発表し、1970 年代のカリキュラム内容のあり方を示した。そのカリキュラム構造として、カリキュラムⅠ（人類の文化遺産としての教材）、カリキュラムⅡ（人間理解）、およびカリキュラムⅢ（自己理解）の三領域が提示された。NEA によれば、「学校は人々にとっては彼ら自身に成長する所であり、子どもにとっては彼ら自身が人間になるところで」なければならない。つまり、子どもの全面的な自己実現を促進することが、Humanistic Curriculum の目的である。

そして、Humanistic Curriculum の開発は、個人の統合性(individual integrity)を遂行しようとするため、伝統的な学問的分科、子供の社会的発達および、自己実現・自己覚醒という三つの視点から教育内

容の統合を目指し、カリキュラムの編成を求めるのである。中では子供がカリキュラム計画に参加することが重要視されている。また、こうしたカリキュラム内容から「学び方を学ぶ」(learning how to learn)という学習方法を児童生徒の身につけさせることが条件付けられる。

三. 九年一貫性教育課程の統合内容および課題

教育現場の自主性および学校の活性化を促すため、まず、従来の法的拘束力を持つ、教育内容の編成基準とされる「課程標準」(学習指導要領に相当するもの)の基準性を弾力化させ、それを大まかな大綱的指針となした。1998 年 9 月に公布した『国民教育階段九年一貫課程総綱綱要』によれば、九年一貫性教育課程は児童生徒の生活を中心として、彼らの心身の諸能力を調和的に発達させる過程でなければならない。

その教育課程は、①人と自己、②人と社会環境、③人と自然環境、という三つの視点から十項目の目標が定められた。そして、九年一貫性教育課程の学力観は、この十項目の目標に基づいて、①自己理解と潜在能力の開発。②鑑賞、表現、創造、③人生計画と生涯学習、④表現、コミュニケーション、他者と苦楽を分かち合う、⑤尊重、関心、集団意識、⑥文化学習と国際理解、⑦計画、組織および実践、⑧科学技術と情報の運用、⑨能動的な探求と研究、⑩独立思考と問題解決、という十大基本能力の育成である。

この十大基本能力を備える国民を育成するために、九年一貫性教育課程は従来の教科分科を打破し、その代わりに言語、健康と体育、芸術と人文的教養、数学、自然と科学技術、および総合活動の七大学習領域を提供した。これは単なる教科科目の統合だけでなく、学校全体の教育活動や学校外の体験活動などの統合も含めている。よって、カリキュラムの統合化は今回の改革案に重要な役割を担っている。

とはいえ、こうした大胆な改革内容は、現実には①教員資質の向上問題、②教育評価の確立、③教材・教育課程開発などの研究機関の設立、④学習実態へ調査・分析、⑤カリキュラム統合への共同理解、などの課題が残っている。

四. おわりに

「知の総合化」と「知の主体化」を求めるために、各教科科目を七大学習領域に変えた九年一貫性教育課程におけるカリキュラムの統合は、単なる「学問からの要請」という教科間の統合にとどまり、①人と自己、②人と社会環境、③人と自然環境という目標にまだ達していない。つまり、Humanistic Curriculum 理論におけるカリキュラムⅡとカリキュラムⅢの段階に至っていないということである。とはいえ、特殊な改革背景の中で、九年一貫性教育課程におけるカリキュラムの統合は、一定の統合類型を求めるのではなく、より多元的なカリキュラムの統合を開発することを狙っているのである。したがって、今後の教育内容の統合はいかに展開されているかが、十分に注目に値すると思われる。